

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E1140011		学習障害(LD)児等の心理と指導法 (Teaching Method for Children with Learning Disabilities and Psychology of Them )														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	3	教育学部			氏名 衛藤 裕司 E-mail eto@oita-u.ac.jp 内線 7537										
授業の概要	LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)等を中心とした通級指導教室に通う障害のある子ども達の心理に関する基礎的な知識を学ぶ。授業における実態を学んだ後、それぞれの子どもの実態把握の方法と支援方法について学ぶ。通級指導教室に通う子ども達だけではなく、通常学級に在籍しながら支援を必要とする子ども達もその対象とする。これらの子ども達の行動特徴の分析を行うことができ、支援方法の提案ができるようになることがこの講義のゴールである。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)等の状態と実際例を説明できる。															
目標2	LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)等のある子どもの行動特徴を心理学的な観点から説明できる。															
目標3	LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)等のある子どもの支援方法を提案できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 LD等のある子どもの心理に関する基礎知識 1																
2 ADHD・情緒障害のある子どもの心理に関する基礎知識 2																
3 LD・ADHDのある子どもの心理と教育 1：ディスレクシア(読み書き障害)																
4 LD・ADHDのある子どもの心理と教育 2：算数障害																
5 LD・言語障害のある子どもの心理と教育 3：表出性言語障害・受容・表出性言語障害・吃音																
6 LD・ADHDのある子どもの心理と教育 4：発達性協調運動障害																
7 LD・ADHDのある子どもの心理と教育 5：ADHD・ADD																
8 情緒障害のある子どもの心理と教育：不登校・行為障害																
9 LDのある子どもの心理と自立活動 1：実態把握(行動観察・ノート・連絡帳・描画)																
10 LD・言語障害のある子どもの心理と自立活動 2：実態把握(知能検査・言語検査)																
11 LD・言語障害のある子どもの心理と自立活動 3：指導計画の立案																
12 LD・言語障害のある子どもの心理と自立活動 4：指導計画の実施・評価																
13 ADHD・ADDのある子どもの心理と授業 1：注意のコントロール																
14 ADHD・行為障害のある子どもの心理と授業 2：行動制御・実行機能																
15 LD・ADHD・言語障害・情緒障害のある子どもの家族の支援																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					ディスカッション(話し合い), 相互教授(話し合い)					工 夫 そ の 他 の	シミュレーションを行う				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前配布課題(15時間)														
	事後学修	配布資料による課題(15時間)														
教科書	指定しない。必要に応じて、プリントを配布する。															
参考書	小野次朗・上野一彦・藤田継道(編),「よくわかる発達障害(第2版)LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群」,ミネルヴァ書房,ISBN 9784623057368 上野一彦・牟田悦子・小貫悟著,「LDの教育-学校におけるLDの判断と指導」,日本文化科学出版,ISBN 4-8210-7313-7 Russell A. Barkley(原著),海輪由香子(翻訳),山田寛(監修)「パークレー先生のADHDのすべて」,VOICE															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	小テスト(状態と実際例)	30%														
	小テスト(心理学的分析)	30%														
	テスト(支援方法の提案)	40%														
注意事項	欠席届けを提出する場合,本人が2週間前以上に,直接,届け出ること(メール・ボックスへの投函は不可。なお,病気等,やむをえず欠席した場合は,復帰後2週間以内に証明できるものを添え,提出。2週間以上,経過した場合,認めない。															
備考	特別支援教育コース以外では,副免許申請許可を得た者のみ受講できる。															
リンク	URL															